

Turin's Tea Time



テュリンのティータイム

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。コーラを飲みながら怖い話をする季節です。

今月のテーマは「オーストラリアの幽霊話」です。西洋の怖い話はハロウィンや不吉とされている13日の金曜日になりますが、日本では夏になると怖い話をします。そこで、今回は怖い話で今年の暑さを忘れたい人に、オーストラリアの幽霊の話をお3つ教えます。



▲今回3話目に紹介するミンミンライツの看板。ここから120kmはミンミンライツの地

オーストラリアの幽霊話

今でも現れるフィッシャーの幽霊

1話目は、オーストラリアで一番有名な「フィッシャーの幽霊」の話です。昔、フレデリック・フィッシャーという男がシドニーの近くにあるキャンベルタウンに住んでいましたが、1826年6月に突然消えてしまいました。隣人は「フィッシャーは私にすべての財産を渡してイギリスに帰った」と言いました。ある日キャンベルタウンのホテルのドアがバンと開き、男が慌てて飛び込んできました。男は幽霊が近くの野原を指さしていたと騒ぎました。警察がその野原を調べると、フィッシャーが埋められていて、隣人を犯人として逮捕することになりました。もちろん本当にあったかどうか証拠はないのですが、今でもときどきキャンベルタウンにフィッシャーの幽霊が現れて、人々を怖がらせているそうです。

観光スポットとしても大活躍

2話目は、シドニーにある古い隔離ステーションで起きました。この施設は、1830年代に移民がヨーロッパから何カ月もかけてやってくる時、船内でポリオや天然痘などの疫病がはやり、治療が終わるまで隔離するために建てられました。しかし、施設内は汚く不衛生で、患者の扱いもあまり良くなく、元気な姿でオーストラリアの土地を踏めずに亡くなった人も多かったそうです。現在もシドニーの歴史のひとつとして保存され、博物館や

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson22

怖がっている人をからかうときに一言

"chicken"

読み方 「チケン」

意味 「弱虫、卑怯者、臆病者」

「この映画、あまり見たくない…」

「本当に臆病者だね」

直訳すると「鶏」ですが、鶏は怖くなったらすぐ逃げることから「弱

虫」「卑怯者」とからかう言葉として使います。

からかう言葉には「Scaredy Cat」(怖がり猫)というものもあります。



レストランとして使われてい
ます…が、夜になると無念の思
いを抱いた過去の患者や看護師
の幽霊が徘徊している姿を見
たという人も多いそうです。ま
た、公式で夜のゴーストツアー
も行っているそうです。ツアーに
参加した幽霊の存在を信じてい
ない人たちから「怪しげな音が
した」「説明のできない寒気
を感じた」という話もあった
そうです。



▲隔離ステーション

追いかけてくる不思議な光

最後はミンミンライツ(ミンミンの光)の話です。ミンミンライツはフィーンズランド州にある、とても小さな町の名前から名づけられました。その近くでは、不思議な光が突然現れ、しばらく人を追いかけて、突然消えるそうです。光の正体は不明で、日本の怖い話に出てくる人魂ひとたまに似ています。アボリジニーの民話によると、幽霊が亡くなった人がキャンプファイヤーをしているそうです。幽霊の存在を信じていない人は、目の錯覚や発光する虫などの自然現象だと言っています。しかし、ミンミンライツの正体や原因は今でもよく分かっていません。

世界中にはさまざまな幽霊話や怖い話があります。これらの怖い話を比べてみるのも面白そうですね。

※ページ内のイラストは、国際交流員のテュリンが描いています